

福島第一原発事故に対する宮城県での電話相談内容の検討

(財)宮城県対がん協会 放射線課
東北大学院医学系研究科 保健学専攻
○八島幸子 (Yashima Sachiko)
(財)宮城県対がん協会 放射線課
太田洋一 (Ohta Youichi)
東北大学院医学系研究科保健学専攻
千田浩一 (Chida Kouichi)

【目的】

福島第一原発事故に伴う、放射線被ばくにおける健康不安に対する電話相談対応について、宮城県原子力安全対策室から宮城県放射線技師会への依頼を受け、県庁内に設置された原発事故相談窓口で相談員として携わったので、その内容を検討し報告する。

【相談窓口の概要】

3月16日から宮城県庁内に、宮城県原子力安全対策室によって設置された。設置当初の主な目的は、スクリーニング検査の必要性の有無を判断し、必要な方の検査を予約することだった。原子力安全対策室・原子力センターに所属する県職員、東北大学に所属する放射線科医師、保健学科教授、宮城県放射線技師会に所属する診療放射線技師が電話相談に対応した。

【方法】

平成23年3月18日から4月26日まで、のべ約20日間相談員として参加したが、その間に原発事故相談窓口に寄せられた電話相談のうち、自分が担当した相談について内容を洗い出し分別した。相談者が不安を増大させた要因、電話による相談の傾向、被ばく相談員として必要と思われることについて検討した。

【相談内容】

- 放射線スクリーニング検査
 - 被ばくしていないか検査してほしい
 - 避難所に入居するためにスクリーニング証明書を要求された
 - 病院受診拒否された方がいたので、受診できるための準備として証明書が欲しい
- 雨、風向きによる影響
 - 目に雨水が入って充血しているが、放射線のせいではないのか
 - 雨や雪にあたっても大丈夫か
 - 雨水で歯磨きしたが、被ばくしていないか
- 環境放射線
 - モニタリング測定値を教えてください
 - 県外のように、モニタリング測定値をリアルタイムに公表してほしい
 - 環境放射能水準調査(核種分析)を行ってほしい
- 被ばく線量
 - 積算で1mSvを超えたら、危険ではないのか
 - 父が長時間外で作業していて、計算すると11年で200mSvを超えるが、大丈夫か
- 妊娠・出産・疾患との関連
 - 現在妊娠しているが、出産しても大丈夫か
 - 事故による被ばくも考えられるので、X線検査は当分受けない方が良いか
 - 甲状腺疾患があるが、事故による影響や注意点はないか

6. 放射性物質による影響(I・Cs・Pu・Sr)
 - 安定ヨウ素剤を配布してほしい
 - 子供が泥遊びの後、手を洗わずにおやつを食べたが、内部被ばくしているのでは
 - Pu, Srが宮城県にも飛散してはいないか、肺や骨への健康影響はないか
7. 測定器・検出器
 - 海外や他県から放射線検出器を借りてほしい
 - サーベイ用測定器を購入できる場所を紹介してほしい
8. 水、野菜等の食物摂取の安全性
 - 水道水・井戸水を測定してほしい
 - 市販のミネラルウォーターは測定しているか
 - 母乳を測定してほしい
9. その他
 - 子供を外で遊ばせても大丈夫か
 - 散歩するとき、マスクは必要か
 - 学校が始まるが、宮城に帰省して子供を学校に通わせても被ばくの心配はないか

【検討】

1. 不安を増大させた要因について
 - B.G.の存在を知らない
 - 放射線・放射能の単位・数値がわかりにくい
 - 宮城県だけ測定値が提示されない
2. 電話による相談の傾向
 - 同じ相談者が、同じ内容で複数回電話してくる
 - 県内に限らず、遠隔地からの相談もみられる
 - 対面による相談と異なり、個人が特定されないため攻撃性が増すことがある
3. 相談員に必要と思われたこと
 - 放射線被ばくに関する知識
 - 放射線による人体影響
 - 疫学的に確認されている放射線影響
 - 線量の単位
 - 自然放射線
 - 放射線検出器
 - 線量の計算(実効線量、内部被ばく)
 - カウンセリングについての知識・研修

Table 1 環境放射能水準調査(定時降下物)

都道府県名	定時降下物			備考
	放射性ヨウ素 131	放射性セシウム 134	放射性セシウム 137	
1 北海道(札幌市)	不検出	不検出	不検出	
2 青森県(青森市)	不検出	不検出	不検出	
3 岩手県(盛岡市)	不検出	不検出	不検出	
4 宮城県	-	-	-	震災被害によって計測不能
5 秋田県(秋田市)	不検出	不検出	不検出	
6 山形県(山形市)	不検出	不検出	不検出	
7 福島県(福島市)	不検出	不検出	不検出	
8 茨城県(ひたちなか市)	不検出	不検出	不検出	
9 栃木県(宇都宮市)	不検出	不検出	不検出	
10 群馬県(前橋市)	不検出	不検出	不検出	

【考察】

国際原子力事象評価尺度(INES)暫定評価レベル7への引き上げ、浄水場での暫定基準値を超える放射性ヨウ素の検出、コウナゴからの放射性セシウムの検出、母乳からの放射性物質の検出など、これら事故の状況が判明するたびに相談件数が急増し、相談の内容も変化したように思われた。自分が対応した相談においては、水・牛乳・野菜・母乳の測定など、食物摂取の安全性に対する相談が一番多い傾向にあったと思われる。

【まとめ】

限られた手段と情報の中でも被ばく相談に対応できるよう、普段からの放射線被ばくに関する学習と、カウンセリングに対する訓練の必要性を感じた。今後さらに講習会などの機会に参加し、被ばくに関する理解を深めたいと思う。